2025年度 第3回有識者会議 開催報告

開催概要

- 日時: 2026年2月9日(月) 14:00-15:30
- 開催形態:オンライン (Teams)
- 参加者 (敬称略) :
  - 【座長】荒井 秀典 (国立長寿医療研究センター)
  - 水野 正明　(名古屋大学)
  - 大高 洋平　(藤田学園藤田医科大学)
  - 安部 聡 (ボストンコンサルティンググループ)
  - 加藤 浩晃 (デジタルハリウッド大学)
  - 柴山 政明 (名古屋大学)

  （欠席）
  - 江口 満 (厚生労働省)

- 次第:
  - 開会
  - 社会実装先行事業・共創促進事業の伴走支援の進捗報告
  - 来年度について
  - 閉会

有識者より頂戴したご意見

社会実装先行事業・共創促進事業

- 社会実装先行事業及び共創促進事業の進捗状況について事務局より報告し、ご意見を頂戴した（詳細議論は非公開）

【事業の組み立て】

- 「誰を対象に」「何を介入し」「既存サービスとどのように差別化するのか」を明確に整理する必要
- サービス検討にあたっては、既存のエビデンスを上手く取り入れ、受け入れられやすいストーリーを検討する必要
- 「生きがい」など表面的な概念をより踏み込んで捉え、どのようなデータとロジックで示すことが可能か仮説をたて、検証する必要

【ビジネスモデル】

- エビデンス蓄積は重要である一方、マネタイズの複線化など、ビジネスとしての成立可能性も並行して検討する必要

【行動変容・継続利用させる工夫】

- 健康状態の見える化にとどまらず、フレイルリスクのアラート、回復状況の可視化など、どのような機能が行動変容やモチベーション向上につながるのかを幅広く検討する必要

プロジェクト運営

- フレイルに着目し、各柱のテーマが設定されたというプロジェクト当初の経緯を踏まえ、実証事業全体を俯瞰的にコントロールしていく必要
- プロジェクト開始当初のターゲットであるデジタルリテラシーが低い層から、ポータルサイトが利用可能なリテラシーを持つ層へとプロジェクト全体の方向性が変化していることを明確に示していく必要